

令和6年度 東京都地域活動に関する検討会（第1回）

事前アンケート 集計結果

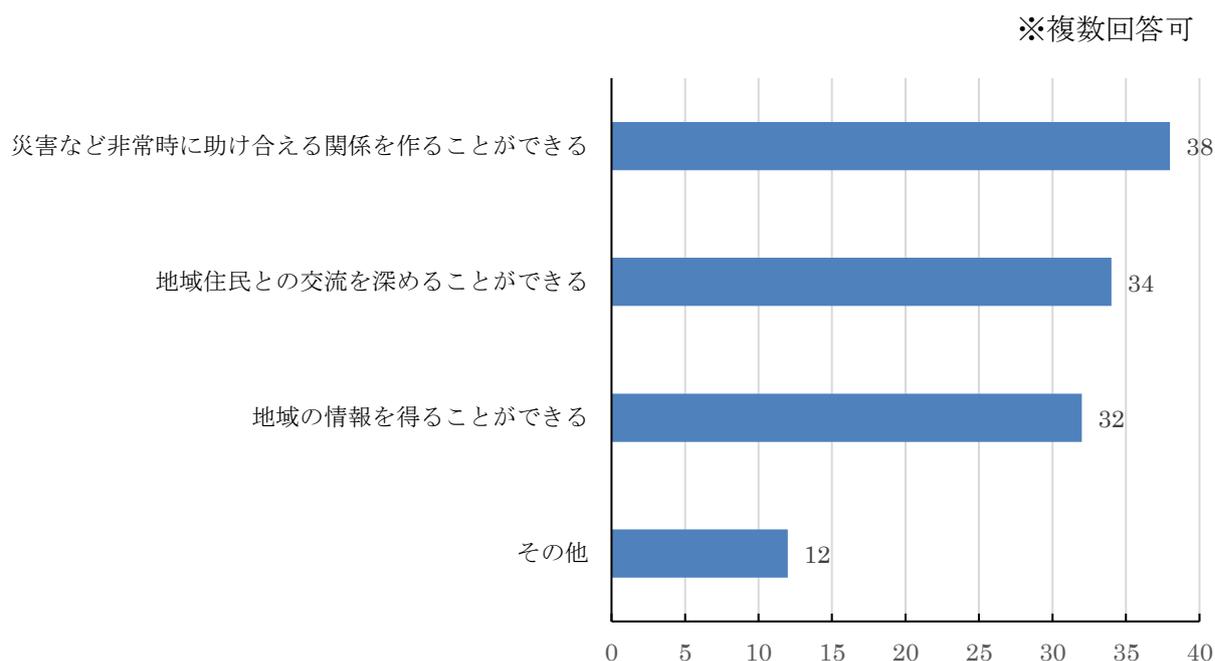
《町会・自治会への加入促進に向けた取組について》

東京都生活文化スポーツ局

令和6年7月

1 町会・自治会のメリットとしてアピールするもの

38 連合会に対し、地域住民に加入について働きかける際に、町会・自治会のメリットとしてアピールしているものについて調査し、以下のような回答があった。



<その他具体的な内容>

○ 防犯活動

- ・防犯活動、清掃活動等により住みよいまちにすることができる。
- ・地域の安全（防犯・交通）を高めることができ、安全安心な暮らしやすい町づくりのためには、日ごろからお互いに顔が見える環境づくりが大切であることをアピールしている。
- ・防犯灯の設置相談
- ・地域の防犯・見守り活動を行い「安心・安全」な地域作りをしている。
- ・顔が見える関係性を作ること、災害時だけでなく日頃の防犯活動につなげることができる。
- ・支え合うまちづくり（防犯パトロールや高齢者・子どもの見守りなど）

○ 防災活動

- ・防災訓練（災害時の共助訓練）を実施
- ・災害に強い地域作りのためにカードを配布して、互助の推進強化に努めている。

○ イベント

- ・防災訓練、祭礼、ラジオ体操、交通安全運動、各種募金活動、新入学のお祝い、敬老のイベント、歳末夜警など、町会のあらゆるイベントを紹介・参加を促すことで、地域活動に参加することが有意義であり、かつ楽しいというメッセージを発信する。
- ・子供まつりなどでは、町会員世帯に福引の引換券など配り、町会費の活用方法を示している。
- ・お祭り（神社系と自治会系、盆踊り）、クラブ活動（音楽やダンス、軽運動、お茶会）、子供会支援（誕生会やクリスマス会など）を実施

○ その他

- ・敬老の祝い、小学校入学祝、死亡時の見舞金等の慶弔の用意をしている。
- ・きれいなまちに住むことができる。
- ・こども、高齢者の安全見守り活動を実施していること。
- ・自由に使える会館（自治会館や公会堂、集会場）が近くにある自治会の方が、住民の活動は活発である。
- ・近所のお店で割引や特典の付くカードを発行し、加入のメリットをアピールしている。
- ・住みやすいまちづくり（ゴミの出し方や資源回収など）

2 実際に参加者数の増加につながった活動

○ チラシ等の配布

- ・各自治町会が作成したチラシについては、新設した区民事務所をはじめ、複数の地区センター内にコーナーを設けて掲示し、積極的な周知を図った。
- ・転入者に対する町会・自治会紹介パンフレットの配布
- ・単一町会の紹介パンフレットの作成支援、町会・自治会によるポスティング・イベント時の配布。
- ・区が作成している町会加入促進リーフレット（加入申し込みハガキ付）を新築の集合住宅などに配布したところ申し込みがあった。
- ・未加入者との面談の機会を得るために、加入チラシを作成し、町会活動の紹介を行った。
- ・町会主催のイベントの際に、町会加入についてのチラシを配布。イベントに参加した住民が興味を示して、加入につながった。
- ・令和4年に地区自治会連合会で自治会・町会PRチラシを刷新し、令和5年に管内小学校の全校生徒に配布、各自治会町会でも全戸配布した。日頃からの自治会・町会の活動を紹介するとともに、災害時に行くべき一時集合場所・避難場所・避難所を書き込める欄を作り、チラシを自分のものとして活用してもらえるようにした。本地区では、担い手育成勉強会やプロボノの取組などをコロナ禍でも開催するなど、若い世代の加入に対する地域の関心が高く、ここ数年の加入世帯数が漸増傾向にある。
- ・防災チラシ（チェックシート）と合わせて町会加入のチラシ（町会長の携帯番号入り）を同封して地区内の全世帯にポスティングを行った。
- ・下記について記載した「町会加入チラシ」を転入時に配布している。
 - 1 「安全・安心なまちに住みたい」
 - 2 「きれいなまちに住みたい」
 - 3 「地域の人と仲良く暮らしたい」
 - 4 「生活に必要な情報を知りたい」
- ・町会オリジナルの「町会・自治会加入促進ポスター・チラシ」を作成し、掲示・配付を行い、加入者の増加に繋がった。
- ・都補助金による防災チラシやポスターを活用して、加入を呼びかけた。
- ・連合会として地域のイベント情報チラシを作成し、まず各自治会のイベントに足を運んでもらうことから始めている。
- ・市への転入者が住民登録手続き時に、自治会・町会加入促進のチラシを配付している。また、自治連合会機関紙に自治連活動を紹介することで、自治連活動の案内を通して、自治会・町会加入促進につなげるようにしている。

- ・認定 NPO 法人サービスグラントが運営する GRANT を活用した「まちの腕きき掲示板」事業で作成した、子育て世帯を対象にした加入促進チラシ（自治会の役割やイベント情報等をイラストや写真等を交えて掲載）を転入世帯に配布したところ、チラシを見てイベントに参加した世帯が加入してくれた。

○ 訪問による働きかけ

- ・訪問日を事前に指定したことで、確実に説明の機会を得ることができ、町会活動に対する理解をいただけることで、加入件数が増えた。
- ・町会役員からの転入情報をもとに訪問等による働きかけを行っている。
若い夫婦の一戸建て住宅を主に訪問し、お祭りやリクレーションを PR する。
新規加入者のほとんどが 30 代のご夫婦であり、訪問すれば 7~8 割は入会してくれる。
- ・転入者の方宅に直接訪問し、町会の活動内容等を丁寧に説明し理解を得た。
- ・戸建ての転入世帯に戸別訪問をして、町会独自で作成した加入促進チラシを用いて町会加入を案内している。
- ・新築の戸建てができた時に、訪問して加入をすすめている。
- ・引っ越してきて、すぐに訪問して町会・自治会に加入しないか勧誘すると加入してくれることがある。
- ・町内会エリアに新しく引っ越してきた方への個別訪問がもっとも効果があった。
スポーツイベントや子ども会の活動に参加したいからとの理由、あるいはまちづくり活動に興味があり、団体として地区連合会に参加するという事例がある。
- ・転入世帯へ直ぐに訪問し加入の働きかけを行う。訪問時に加入するメリットは？とのやり取りで断られても諦めずに、イベントへのお誘いなど(ポスティング)により地域にある町会・自治会へ関心を持ってもらうことが加入者増加につながる。
- ・町内に新築された住居世帯に理事数名で訪問し、町会だより等による町会の案内、そして加入のお願いをしている。不在の場合、平日に限らず日祝日も含め、改めて訪問している。

○ SNS 等を通じた発信やデジタル化

- ・町会加入の導入として、加入への手伝いをする「向かう会」を結成し、「向かう会」メンバー内で LINE グループでの活動周知・行事手伝いの推進を行うことで、もれなく加入誘導につなげることができた。
- ・複数の自治町会で、LINE によるまつりや行事の発信を積極的に行っている。マンションなどに独自に作成したチラシを掲示し、スマホの QR コードから加入申し込みが行えるようにしている自治町会も見受けられた。
また、連合会の HP をリニューアルし、各自治町会が作成したチラシ（活動内容などを掲載）や各自治町会ホームページのリンクを貼付し、いつでもどなたでも見られるようにした。
- ・電子申請を活用した町会・自治会加入手続きを導入した。

- ・町会の催し等を SNS で発信し、広く周知することで、町会活動を知らせている。
- ・地域活動センターの L I N E を活用することにより、友だち登録をしている方に情報発信を行っている。
- ・単一町会による実態アンケート調査を活かした若年世代の取り込み
区内単一町会において、コロナ禍の間にいくつかの要因で役員数の急激な減少が起こり、従来通りの町会活動が行えない状態となった。地域に最近増えてきた子育て世代の若手を活動に取り込むことが急務となり、以下の段階的な対策に取り組むことで若年世代の活動参加につながった。
 - ① 班長達へのアンケート調査の実施
 - ② 若手とのコミュニケーションを活性化するために、町会の HP の作成
 - ③ 2 年目の班長アンケートの実施
 - ④ アンケートの結果をリスト化し、具体的に町会活動に興味がある人に声を掛け、行事（祭り）を従来のものから、若手のアイデア主体で行うことにした。
 - ⑤ 町会の公式 LINE を開設。2 ヶ月ほどで登録者数が劇的に増え、祭りや行事の周知、町会員とのネットを通じた個別のコミュニケーションが一定程度活発化した。
 - ⑥ 役員減少により一時は開催継続が困難と思われた祭りが、大盛況で開催できた。また、入ってきた若手達が、個性を活かして活躍した。
- ・令和 6 年度より、区公式ホームページに掲載している町会・自治会加入申込手続きについて、従前の申込用紙に加えて、オンライン申込フォームを追加したところ、申込件数が前年度より増加している。
- ・町会・自治会活動に関心を持ってもらうため、SNS（Facebook、LINE、X（旧ツイッター））等により、定期的に情報発信を続けており、若い世代、子育て世代の地域イベント参加に繋げることができた。また、イベント参加をきっかけに町会加入、町会行事手伝いする若い世代も増えてきた事例あり。
- ・町会連合会のホームページを開設し、各单位町会自治会へのホームページへのリンクを貼り町会・自治会のイベント情報や実施報告を定期的に掲載しており、町会・自治会に関する問い合わせの増加につながった事例がある。
- ・YouTube で動画を配信している。
- ・町会・自治会三役が高齢化する中で役員構成に 30～40 歳代の子育て世代が入ってもらうことで、子育て世代の LINE グループでの発信が町会・自治会に関心を持ち活性化につながる。子育て世代は町会・自治会が活性化すると関心を持つような実感がある。最初から加入促進はなかなか難しい。
- ・市公式ホームページに自治会・町会への加入案内を掲載している。

○ イベントの開催

- ・町会イベント（祭り・盆踊り・餅つき大会等）の際や敬老のお祝いの際に、参加者を個別に勧誘した。
- ・祭りの後で、子どもがお世話になったからとのことから加入につながった。

- ・町会の大きなイベント（餅つき大会等）で地域の PTA に働きかけ、協力を依頼することで交流を深めている。また、それにより、町会の活動・運営により多くの人に係わりをもってもらっている。
- ・同一町会内の町会掲示板に掲示してある 5 つの文字を探して、応募することで、景品がもらえる事業の実施。ウォークラリーの形で自分の住んでいる町会掲示板を巡ることで、町会について知ることができ、町会加入に繋がっている。
- ・市内イベントでの、加入促進 PR 活動や、地区連合会で行う防災訓練
- ・連合会が主催で、東京都地域の底力発展事業助成金を活用し、町内会・自治会活動写真展を開催したところ、5 件の加入申込があり、加入促進の効果があつた。

○ **建築事業者、集合住宅等との連携**

- ・町会・自治会加入促進に関する中高層指導要綱及びワンルームマンション条例に基づき、町会・自治会加入促進に関する建設事業者との協議を行った結果を区から情報を得て、町会活動について説明し勧誘し、加入につながった例がある。
- ・集合住宅への加入促進について、新築マンション（1R タイプ）の管理会社にお問い合わせし、1 棟単位での加入につながった。
- ・集合住宅への加入促進について、集合住宅条例の地域団体への説明に対応するために、該当地区の町会長複数名で組織する建替え調整協議会で事業者協議を行い、建築事業者に対して町会加入への依頼を行うことで、加入増加につながっている。
- ・「中高層集合住宅建築物の建築に関する条例」により、一定の集合住宅建築時に、地元町会との事前協議を義務付けている。
- ・東京都宅地建物取引業協会及び全日本不動産協会との連携による入居者への加入説明
- ・建売会社の問い合わせが市の関係、部署にあった場合、該当自治会を紹介し、連絡するように依頼している。

○ **その他**

- ・加入者の増加ではないが、行事開催の周知に合わせ手伝ってくれる人を募集したところ、これまであまりかわりのなかった方が手を挙げてくれ、新たな担い手が増えた。
- ・近隣町会との連絡を密にすることで、地域全体の共通理解を図り、各町会における活動を促進している。
- ・小中学校の PTA 活動をしている方に声をかけ、そこから広めてもらう。
- ・特に効果を実感するものとしては、地域の「絆」を強めて、地域の活性化を図り地域防災力の向上を図ることを目標に、身近な商店街等で「優待サービス」を受けられるカードを発行し、自治会会員全世帯に配布している。
- ・転入者へ市の窓口で自治会の案内を配布している。
- ・加入促進は、自治会・町会の「おかれている状況（団塊世代など世代間の意識格差、転入者と地元住民の考え方、集合住宅と戸建て住宅など）で対策は異なる。共通の対策は自治会の「見える化」を推進することが基本である。

- ・ 隣近所の地道な加入勧誘が有効な手段であることに変わりはないが、近年自分の移住地域に自治会があることを知らないし、勧誘されたこともないという回答が最も多い。
- ・ 協定を結んでいる業界との協力で紹介をいただいていることも耳にしている。さらに協力体制をしていきたい。

3 住民感覚が変化する中、活動で工夫していること

○ 情報発信やデジタル活用の工夫

- ・「回覧板を回すのが面倒」といった意見や「町会がどんな活動をしているのか分からない」という声があり、手間を減らしつつ、町会活動の見える化を実現するため、公式 LINE の導入を推進。全 120 町会中、19 町会が導入、25 町会が導入を検討しており、区も補助金等によるサポートを検討中
- ・情報媒体や連絡手段として SNS や区が整備したデジタル回覧板を活用している。
- ・町会・自治会のイベント情報の発信や認知度の向上を図るため、SNS(Instagram・Facebook)の立上げ、情報発信の強化に取り組んでいる。また、町会役員同士で LINE グループを作る等オンライン化を進めている。
- ・日々の生活に役立つ情報（防火防災・健康増進など）やお楽しみ情報（盆踊り・夏休みラジオ体操など）を SNS・HP、町会掲示板、回覧板、町会誌等で発信し、参加意義を理解していただくとともに子どもが楽しんで参加できる内容を工夫して家族での参加を促している。
- ・町会活動は楽しいという雰囲気やメッセージを日頃から発信し続けている。
- ・町会、町会活動について理解を深め、また関心を持ってもらうための情報発信活動を支援するため、町会連合会で「広報紙作成ワークショップ」の開催、「町会広報ガイドブック」の作成・配布を行った。
- ・未加入の集合住宅居住者に対して、入会案内のチラシ、区のパンフレットをポストインしている。
- ・町会 SNS「いちのいち」を活用している。
- ・町会組織・活動が気軽に見れるよう、ホームページ等を開設した。
- ・従来の掲示板、回覧板による情報発信に加え、SNS を活用した情報発信を促すため、町会を対象とした「セミナー」を開催し、デジタルを活用した町会活動の発信も行うよう働きかけている。
- ・公式 LINE 整備等の情報共有・情報伝達（デジタル化推進）
- ・Facebook、X を利用した情報発信（デジタル化推進）
- ・LINE や QR コード、自治町会 HP の活用などによるデジタル化の促進、自治町会チラシの作成および掲示による積極的な活動周知を行っている。
- ・区 HP にて、各地区、各町会自治会の情報を掲載している。
- ・令和 5 年度には町会自治会への加入促進チラシを全戸配布。
- ・単位自治会のホームページ開設支援活動を行っている。
- ・自治会の PR という観点で、市内の全自治会の名称と区域を掲載したクリアファイルと加入促進のチラシを、東京都の「地域の底力発展事業助成」を活用して連合会で作成し、市

民課協力のもと、転入者向けに配布しているほか、各自治会での加入促進活動の際にも活用いただいている。

- ・「年会費 2400 円、防災訓練等のイベントにすべて参加すれば、3000 円程度のグッズがもらえるメリットがある」とストレートに加入促進チラシに載せることにした。

○ イベント等の工夫

- ・自治会・町会が提供する多世代の居場所づくり（オープンスペース）を行っている。
町会会館や町会が設置する集いの場を地域の居場所として開放・活用し、これら居場所でのイベント等を通じた緩やかな交流により、町会未加入世帯等と顔合わせの機会を作り加入促進に繋げている。特に、地域の子ども、子育て世代との接点が増え、平時・有事の見守りや相互扶助にもなっている。
- ・子どもが参加したい企画（人形劇、音楽会、クリーンウォーク、防犯パトロール）を繰り返し行うことで若い世代の加入を促している。
- ・町会行事（子ども夏祭り、ハロウィン、フリーマーケット等）にて、町会加入にかかる呼びかけを行う。
- ・防災訓練や防災炊き出しの際に、自治会への加入のお誘いをする。
- ・比較的参加しやすいクリーンキャンペーンを行うことで、参加者が多くなった。
- ・地域の安全や美化のために町会活動があることを理解していただけるよう、防犯パトロールや地域の美化活動を実施している。
- ・盆踊り大会など、地域の行事の際に加入促進を行っている。
- ・若年層、単身者にも興味があるような事業を実施している。
- ・防災訓練の実施を地区町会連合会で実施することで、多数の参加者があり、町会の認知度のアップを図っている。
- ・防災訓練の実施や、停電時のスマートフォン充電ステーションの用意など、いざという時に助け合える町会・自治会をアピールしている。
- ・会員でない方にも単発の行事にスポットで参加（お手伝い）してもらい、町会活動を知ってもらう機会を設けている。
- ・地域交流活動（お祭り、盆踊り、運動会、もちつき等イベントの開催）に力を入れている。
- ・防災、減災に備えた活動（防災訓練等）を広く周知している。
- ・地域イベント開催時に、町会加入促進ブースを設置し、地域の底力事業を活用した「加入促進用のぼり」を立て、加入促進のパンフレットを配付している。
- ・みこしかつぎや夏のイベント（そうめん流しなど）に、子ども、お年寄りに参加を呼びかけ、町会行事に興味をもってもらう。
- ・ラジオ体操や盆踊りの場で町会活動をお知らせしている。
- ・お試して町会・自治会のイベントに参加しないかと声掛けをすることで、町会・自治会を知るきっかけにしている団体がある。

- ・子どもが参加しやすいイベントを通じ、町会自治会の取り組みへの理解促進を行っている。
- ・地域のお祭り等を自治会の周知の場にするため自治会に加入していない人にも広く参加できるようにしている。
- ・ラジオ体操やハロウィンイベント、夏まつり、文化祭、餅つき大会等のイベントを通じて参加を促し加入促進につなげる。
- ・昨年度、単一町内会が他の地域団体（長寿会、他 2 団体）と共同で、事業（野菜即売、子供向けゲーム等のイベント、演芸、焼きそば等の模擬店）を実施した。

○ 新規住民への働きかけ

- ・転入者が自治会・町会に加入した際の特典として、以下①・②いずれかの防災用品を配布し、地域防災における町会の存在意義やメリットの啓発に努めている。
 - ① 懐中電灯ランタンや給水バッグなど防災必需品 30 点がリュックサックに入ったもの
 - ② 懐中電灯、読書ライト、アラーム、スマホ充電機能など多機能を有した防災ラジオ
- ・新築マンションなどに町会役員等が出向き、住人に直接町会活動などについての説明を行い、加入の勧誘を行っている。
- ・近年、マンションが増加し、マンション居住者の町会への未加入が問題となっている。そこで、マンション居住者と地域住民との交流を促進するため、マンション新築時に事業者の中から「地域連絡調整員」を選任し、町会・自治会との連絡調整を行い、マンション居住者の町会加入にむけての協力をお願いしている。また、区の独自制度である「マンション管理計画認定制度」を利用し、マンション管理組合から報告のあった「町会・自治会との連絡調整担当者」と連絡をとり、マンション居住者の町会加入へ繋がる活動を行っている。
- ・各自治会の役員が、市長と自治連会長との連名による加入のお願いに関する文書と PR チラシを持って新規住民宅に出向き、お願いをする月間を設けている。
- ・転入・引っ越ししてくる方に対して、自治会役員が直接自治会への加入を働きかけている。

○ その他の工夫

- ・地元 PTA や育成会等が主催するイベントの活動場所の提供や、必要に応じて資金援助を行うなど、日頃から若い人たちとの関係性をつくっておく。
- ・町会役員が地域の小中学校の PTA 役員と親睦を深め、連携出来る活動を行う。
- ・学校内のつながりを有効に活用することで、日帰りバス旅行や子どもまつりの参加者を増やしている。その結果、日帰りバス旅行では、普段町会イベントに参加がない世帯の参加があった。また、子どもまつりでは、町会員以外も参加可能としたことで、新規会員の獲得につながった。

- ・町会で SDGs の取組を行う委員会を設立し、SDGs に紐づけて町会活動を企画した。その結果、これまで町会活動に参加していない方が SDGs に関心を寄せて運営にかかわるようになった。
- ・ボランティアに少しでも関心がある方には、加入に向けた勧誘を行う。加入後も徐々に意識付けをするなど、活動への関与を促していく。
- ・町会活動をさらに向上させ、新規加入促進のヒントを得るために町会管内在住者にアンケートを実施。
- ・一部町会で大学とのコラボを開始した。
- ・国内及び海外で大規模な震災・風水害が発生し、義援金等の活動をした直後は、町連ホームページに町会・自治会に関する問い合わせが増え、加入に結びつく事例がある。
- ・時間単位や事業の一部についての限られた活動参加の容認などを行っている。
- ・高齢者（独居世帯）加入者からの申し出により、役員等の負担を免除している。
- ・活動内容によって準会員など会費を安く設定し、活動への負担感を少なくしている。
- ・役員などの負担が大きい、というイメージが先行しているので、「まずは 30 分だけ、この仕事を手伝ってほしい」と具体的に伝えて仲間を増やしている。
- ・役員免除などを行っている。
- ・高齢者が自治会を抜けると言ってきたときに、その子供世代に入ってくれるよう頼んでみている。

4 若者、仕事を持つ人が参加しやすくするための取組

○ 時間帯や日程の調整

- ・災害時に避難所と指定されている学校を会場とした避難所開設訓練を、若い世代が参加しやすと思われる土曜日の夜間に実施したことにより、30歳代を中心とした子育て世代が、多数参画した事例がある。
- ・会議の夜間・休日開催
- ・平日勤務の家庭が多いことを考慮し、町会のイベントのほとんどを土日に実施している。
- ・夏まつり、防災訓練、ラジオ体操、年末夜警、夕やけパトロール等様々な時期・時間帯に実施している。
- ・役員会を昼の部、夜の部で実施している町会有一些。
- ・休日や日曜日の事業実施
- ・仕事帰りでも参加できるよう、会議の時間を融通している。また、会議や行事の参加について義務に感じることがないように、必須ではなく自由参加としている。
- ・LINEで事業ごとのグループを作成し、限られた時間と人員でスムーズかつ効率的に事業を行う自治町会や出席率を上げるため会議の日程を夜間や土日にしている自治町会有一些。また、活動しやすくなるよう時間単位や事業の一部分について参加を認めている自治町会有一些もある。
- ・土曜日の夜に会議やセミナー、お祭りや公園清掃などは日曜日開催、平日の活動はリタイヤ世代が助けるなどの工夫をしている。
- ・仕事をしている人が参加しやすいよう、理事会を夜間に開催している。

○ デジタル活用

- ・オンラインによる会議開催
- ・ITを活用した運営方法の見直しを行うため、電子回覧板アプリを活用した実証実験を行っている。
- ・町会 SNS の立上げや発信など、若い人が得意な分野で町会活動に参画してもらえるように工夫している。
- ・若い世代を意識して、SNSによる情報発信、学校・幼稚園・保育園との連携、PTAとの連携を積極的に行っている。
- ・LINEのアカウントを持っていれば誰でも使うことができ、個人のLINEアカウントとは別の名前で利用できる、「LINEオープンチャット」を活用。既存の掲示板、回覧板のほか、地域の情報交換の場として活用
- ・忙しい若い方のためには情報をいかに素早く発信してあげるかが重要であり、公式LINEを活用している。

- ・若い世代が参加しやすいように、町会・自治会イベントの参加を SNS で申し込めるようにした取組事例がある。
- ・市から自治会長への連絡方法で LINE 配信を試行している。
- ・いちのいち回覧でデジタル化することにより、紙の回覧・掲示を見なくても情報が伝わるように努力している。
- ・若者はインスタグラムの画像をよく見ているため、インスタグラムで町内会の PR を始めた。今後充実させていく。
- ・デジタル化に向け、「デジタル化応援隊」の募集をしたところ、中学 1 年生が 1 名応募してくれた。今後、友達を巻き込んでもらうよう、話している。

○ 若者や子育て世帯向けの工夫

- ・町会誌が若年層に興味を持たれる様な工夫（紙面をカラーに変更、地域の大学生等を記者に迎え入れ取材・記事作成）を行っている。
- ・子ども会を通じて、町会活動への協力と加入依頼をおこなっている。
- ・加入にかかるご案内の際に、役員だけでなく、同年代の若い方も同行し、説明を行う。
- ・新入学・新成人の祝金を贈っている。
- ・地域社会の年齢層の多様化にあわせた催しや事業の推進、子どもを中心としたイベントの実施には P T A との連携を進めている。
- ・学校と連携したイベントを企画し、親子連れに町会・自治会をアピールしている。
- ・町会主催の朝版 子どもテーブルの実施（試行中）
- ・防災訓練でパッククッキング講座を開催し、非常食の炊き出しだけでなく楽しい講座とすることで若い世代にアピールしている。
- ・「できる範囲での参加」や「一点などに絞った参加」を促す中で、少しずつコミュニケーションをとり、活動の範囲を広げていく。
- ・休日や夜間を利用した、お祭りや盆踊り、運動会・スポーツ大会・ウォークラリーなど、子育て世帯や若者にも向けたアプローチを行っている。
- ・自治会に理解がある人が参加できるように、自身ができること（Excel で会計処理や災害時ドローン撮影、広報紙作成&HP 掲載）で貢献してもらっている。
- ・地域のこども対象イベントの推進・支援（こども祭り、節分祭、通学学童の見守り活動など）を通じ子育て世帯への地域活動への理解と意識向上を図っている。
- ・子ども達が参加したいようなイベント（夏まつり、ハロウィンなど）を開催して、その親の参加を促すことで、自治会・町会活動に興味を持ってもらう。

○ その他

- ・市内小中学校全てがコミュニティースクール(CS)指定校になっている。CS 委員には多くの町会・自治会の会長や役員となり地域の教育活動に協働し、地域を知ってもらう努力をしている。
- ・イベントの企画や予算の執行について、一定程度の権限を与えている。

- ・役員負担の軽減や免除、自治会・町会活動の簡素化などを行っている。